

2025年度（2026年3月期）決算説明会における質疑応答

※本資料は、説明会での発言をそのまま書き起こしたのではなく、加筆・修正等を加え、当社の判断で簡潔にまとめたものであることをご了承ください。

※また、本資料は、決算説明会（5/21）時点の情報に基づき作成したものであることをご了承ください。

【会社全体・長期経営構想に関するご質問】

Q ROE8%の早期達成に向けて、達成時期の目安と早期達成のために必要な取組を教えてください。

A ROE8%達成の時期をお伝えすることはできないが、2025年3月に長期経営構想を発表してから、2030年度の事業利益目標1,600億円を達成するべく、施策の具体化に向けた検討を進め、その達成に向けた道筋を整えることができたので、できるだけ早められるようにしたい。そのためには、コンテンツなどの資本効率の高いノンアセット型ビジネスを伸長させることが肝要だと考えているが、その一環として、これまでも協力関係にあった東宝グループとさらなる連携に向けた協議も開始している。

Q 今回の長期経営構想のアップデートでは、2030年度までに3,300億円の資産売却を見込んでいるが、今後のインフレや投資の動向によって、追加で資産を売却する可能性はあるのか。

A 毎年のキャッシュアウトやEBITDAの動向等を踏まえて、全体のバランスをみながら検討する。

【各事業に関するご質問】

<都市交通事業>

Q 阪急線・阪神線の運賃改定を実施した後の利益の見通しを教えてください。

A 阪急線・阪神線とも2030年度までの運賃改定を見据えているが、詳細は決まっていないのでコメントは控える。ただ、関西全体の人口が減少していく中でも、投資を先行させることによりサービスレベルを向上させて一層沿線価値を高め、多くの方々に鉄道をご利用いただけるようにしていきたい。

Q なにわ筋線の工事費が増加しているとの報道がある中で、なにわ筋連絡線・新大阪連絡線の工事費の見通しを教えてください。

A なにわ筋連絡線・新大阪連絡線の事業計画はまだ具体化していないため、今の段階で工事費についてお伝えすることは難しい。

<不動産事業>

Q 今後、賃貸不動産のオフバランス化により賃貸収入が減少する中で、（利益の伸長を見込んでいる）海外不動産事業以外の不動産事業の見通しを教えてください。

A オフィスの新規供給が限定的な大阪梅田エリアなどにおいてより積極的に賃料の改定を図るほか、分譲マンション事業や短期回収型事業をさらに伸長させ、オフバランス化による影響をカバーしながら不動産事業全体を成長させる。

<エンタテインメント事業>

Q 今シーズンは阪神タイガースの選手に故障者が多く出ているが、チームをどうマネジメントしていくのか。

A 試合中のアクシデントは避けられないと考えているが、昨年3月に竣工した「ゼロカーボンベースボールパーク」では、充実したリハビリ施設も設置しているので、故障者が出た場合には、それも活用しながら早く戦線に復帰できるよう、サポート体制を整えている。

Q スポーツ事業の今後の成長戦略を教えてください。

A スポーツ事業を成長させるためには、やはり継続して強いチームづくりを行っていくことが何よりも大切なので、先程申し上げた「ゼロ カーボン ベースボールパーク」など、積極的に投資をして選手育成のための環境を整えている。

また、お陰様で球場には既に多くの方にお越しいただいているので、今後は、グッズや e コマース、また動画配信にもさらに注力し、スポーツ事業の成長につなげていきたい。

Q ステージ事業の今後の成長戦略を教えてください。

A 今回はまだ大きく利益を伸ばさせる想定とはしていないので、逆に ROE8%の早期達成に向けて伸ばす余地は大きいと考えている。チケット販売のあり方の見直しなど、色々な工夫によりファン層の拡大を図るとともに、二次商品のラインナップの拡充などにも注力し、さらなる成長を目指していきたい。

<情報・通信事業>

Q 情報・通信事業の今後の成長戦略を教えてください。

A 情報サービス事業では、M&A の検討に加えて、交通ソリューション製品・サービスやビル管理システムなどの今までの強みを活かして、業界の成長率を超える成長を目指す。また、放送・通信事業では、加入者数を増加させていくほか、あんしん・教育事業も今後成長できる可能性が高いと考えているので、こうした取組を通じて情報・通信事業全体の成長を図りたい。

<国際輸送事業>

Q 足元の状況と下期以降の見通しを教えてください。

A 中東情勢の影響を懸念していたが、今のところはそこまで大きな影響は受けていない。ただ、予断は許さないで、今後の情勢をしっかりと見極めていく。また、下期にかけても、業績が大きく変動する想定とはしていないが、今後の情勢をみながら、必要があれば適宜業績予想を見直していく。

<その他>

Q 東宝グループとのさらなる連携に向けた具体的な取組を教えてください。

A これまでも様々な分野で協業してきているが、あまり積極的には発信していなかった。両社でさらなる連携強化に向けた検討に着手しており、具体化できれば何らかの形でお示したいと考えている。

以 上